

下妻小学校認知症サポーター養成講座を開催しました

令和2年11月13日（金）、下妻小学校体育館で「認知症サポーター養成講座」を開催しました。講座には、下妻小学校4年生11名と、授業参観のために来校された保護者も参加。

講師である「筑后市キャラバン・メイト」のメンバーより「認知症」について講義を受け、寸劇や絵本を見ながら、認知症の人が困っていることに気づいたらどうしたらいいかを一緒に考えました。

講義



- ・認知症ってなあに？
- ・認知症にはいろいろな原因があります。
- ・まわりの人の関わり方で、認知症の進行を遅らせることができます。

認知症になるとおこること

①脳の細ぼうが死んでしまうことにより、直接おこる症状（中核症状）

- おぼえられない
- 最近のことをわすれてしまう
- 時間、日にち、場所、人が分からなくなる
- 考えるスピードがおそくなる
- 新しい機械が使えなくなる
- 計画を立てられない、計画どおりにできなくなる



今日からあなたも「認知症サポーター」

○認知症サポーターとは？

認知症の人を「見守る人」、「支える人」、「応えんする人」のことを言います。特別なことをする人ではありません。自分ができることを考えておきましょう。



寸劇

認知症の人に会ったらどんなことができるでしょうか？劇をみて考えてみましょう。

■パターン①

小学生が校門の近くで、左右をキョロキョロしているおばあさんに会いました。

→小学生はどうしたらいいかわからなかったため、声をかけずに帰りました。



■パターン②

小学生が校門の近くで、左右をキョロキョロしているおばあさんに会いました。

→小学生は、おばあさんが困っていることに気づいたので、声をかけました。そして、おばあさんが困っていることを、近所の人に知らせました。近所の人は、おばあさんと顔見知りだったので、おばあさんの自宅に付き添っていきました。

認知症の人へ声をかけるときの 3つのポイント

- ①おどろかせない
- ②いそがせない
- ③相手がいやだと思わない



4年生のアンケートより

Q. これからあなたが認知症の人と接する時に、どんなことができると思いますか？

- ・ぼくは道のあんないをしたいです。
- ・ゆっくり何をしているのか聞いてみる。
- ・おどろかせないようにする。
- ・おどろかせず、急がせず、いやなことを言わず、認知症の人と接していきたい。
- ・自分から声をかける。
- ・まよっていることを助ける。
- ・声をかけてこまっていることをしてあげる。声をかけて、したいことを手伝ってあげる。
- ・認知症の人がいたら、早くも行動して声をかけて、道あんないをしたいと思います。
- ・3つのポイントの ①おどろかさない ②いそがさない ③相手がいやになる言葉をいわないようにする。
- ・1回声をかけて、自分もわからなかったら近くの人にきく。
- ・声をかけてだいじょうぶかたしかめて自分ができるところまでやる。
- ・近くの家の人にたずねる。

保護者のアンケートより（一部抜粋）

・子供達には難しいと思う話を、劇や絵本を使ってわかりやすく伝えていただきました。大人の私達もどう対応したらいいか、お話を聞いてよかったです。

・私も子どもの頃に、道で認知症の方とすれちがったことがあります。その時は自分一人で、まわりに大人もおらず、見て見ぬふりをして立ち去りました。子どもの時にこのような機会があると、認知症についての理解も深まり、いざという時の対処法もわかるので、とても良いと思いました。

・劇を取り入れてあったので、認知症の方の症状や、認知症の人にどう接したらいいか分かりやすかったです。「認知症は特別なことではない」ということを知ることが、大事なことだと思いました。

